

玉木田独步全集

第七卷

学習研究社

國木田獨步全集 第七卷（第五回配本）

G 六四三〇七

昭和四十年六月三十日第一刷發行
昭和四十四年八月十日第四刷發行◎

定價 千八百圓

著者 國木田 獨步

編集者 國木田獨步全集

編纂委員會

發行者 古岡 秀人

東京都大田區上池臺四ノ四〇ノ五

印刷者 矢島 貞雄

長野市西和田四七〇

發行所

株式會社 學習研究社

東京都大田區上池臺四ノ四〇ノ五

電話 (七三〇) 一一一一

振替 東京一四二九三〇

欺かざるの記

後篇

凡 例

一 底本

本書の底本は、第四、第六は自筆本文に據り、第五、第七、第八は田山花袋等校訂本文に據つた。但し、花袋本に於いては、自筆草稿から類推される用字法に従ひ、その表記法を訂正した箇所がある。

一 自筆本の校訂方針

一 原文を忠實に復原した。但し、作者が正字をふまへて使用してゐる俗字・略字は正字に改めた。

二 文字の誤用も判讀できるものはそのままとした。但し、忘想↓妄想の如き明かな誤記は改めた。

三 偽字あるいは獨歩の造字で意味の汲めるものは、ママを附するか、正字に戻した。

四 曖昧の文字には（ ）中にカを入れ、文字の脱落と思はれる箇所には脱カを入れて判讀に便にした。尚、難讀の語には（ ）内に振假名を附した。

五 本文中の空白部分は自筆草稿を踏襲した。

六 自筆草稿の抹消部分は「」の中に復原した。

目 次

第四

明治二十七年	四月		三
明治二十七年	五月		五
明治二十七年	六月		六
明治二十七年	七月		七

第五

明治二十七年	八月		八
明治二十七年	九月		九
明治二十七年	十月		一〇

第六

明治二十七年十一月		一四
-----------	-------	----

明治二十七年十二月 二五五

明治二十八年 正月 二五五

明治二十八年 二月 二七一

明治二十八年 三月 二六六

明治二十八年 四月 二六〇

明治二十八年 五月 二六八

明治二十八年 六月 二〇〇

明治二十八年 七月 二〇七

明治二十八年 八月 三三三

第七

明治二十八年 九月 三五一

明治二十八年 十月 三六六

明治二十八年十一月 三七七

第八

明治二十八年十二月		三八二
明治二十九年 一月		三八一
明治二十九年 二月		三八九
明治二十九年 三月		四〇四
明治二十九年 四月		四〇九
明治二十九年 五月		四三九
明治二十九年 八月		四五九
明治二十九年 九月		四七一
明治二十九年 十月		四八一
明治二十九年十一月		四九二
明治二十九年十二月		五〇五
明治三十 年 一月		五一五

明治三十年 二月 五三二

明治三十年 三月 五三七

明治三十年 四月 五四五

明治三十年 五月 五四七

解題 五五九

主なるヴァリアント 六〇一

第 四

自 明治二十七年四月一日
至 同 年七月三十日

第四の本文の校訂は自筆草稿によつた。

四 月

一日

人は主觀と客觀と相一致する點に於て満足を感じ得るが如し。不幸にして吾未だ明了に説明する能はずと雖も實に吾心はしかく感ずる也

農夫として一生を運命づけられたる者は田野を耕して其の幸福を希ひつゝ一生を送る。

吾は文士として文を作りて以て一生を送るべく運命づけられたるのみ。以て自から幸ひにす可し。如何にすれば幸ひにするを得るか美妙を發揮するに付て只だ正直熱心に働けば足る。如何にして美妙を發揮し得るか、大我のみ。同情のみ。信仰のみ。

昨日の黒澤行を誌し置く可し。(二日朝認む)

昨日は日曜日。教會の人々と共に黒澤と稱する處に櫻見物に出行きぬ。此黒澤の櫻と〔以下三字抹消、稱する〕云ふは、吾が佐伯に來りし時以來已にしば／＼耳にする處なりし也。佐伯町を去る三里半の山奥に在り。

拜禮終はりし後、同行者八人午前十時半頃出發す。歸宅したるは午後七時半なりし。

櫻花は已に散り居たり、只だ落花紛々の景を賞するを得たりしのみ。吾等そのみにても満足したり。

櫻樹は二本あるのみ、されど何百年を経たりしとも知れざる老樹なり。なか／＼世にめづらしき大木なり。立派なる庵あり、東光庵と稱す。

散にけり、いざ事問はん村びとよ

花のさかりをいかに眺めし。

此邊はまことに遠村なり、されど人は住み花は咲き、其處に人生あり。其處に老若男女あり、其處に吾あるなり。

知りぬ、己れの吾を以て尤も大なる吾と心得、其の吾をのみ中心として齷齪することの極めて愚なることを。見よや、乾坤の間、人類至る處に生滅す。何れか其吾を保たざらん。希くは此の吾をして其等凡ての吾に住まはしめよ。

余は此の凡ての吾に同化するを得て天地悠々の哀感のうちに、神聖者の信仰に生き、以て他の吾達の爲めに美妙を發揮し得る文士となりて一生を幸福に送るが願のみ。

英勵風發、縱横に美妙を發揮し得れば如何に幸ぞ。

美妙何處にかある。

美妙はシエクスピヤーの筆の上ほりたる處にあり。ユーゴーの筆に上りたる方面に在り。ウオーツウオースの筆に上りたる處に在り。はた老子信仰の人生觀に在り。はたクリスト信仰の人生觀に在り。はた